

部活動の地域移行は通塾回数確保のチャンスとなるか

塾に訪問した際、先生方から部活動について、「中学3年生の引退までは部活動優先になり、通塾回数が増やしやすい」というご相談を受けることがあります。部活動に力を入れている中学校であれば、なおさら通塾の回数は確保しづらいと思います。そんな時、下記の様な情報を目にしました。

スポーツ庁は部活動の地域移行について、次のような発表をした。
「令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」
では、部活動の地域移行とは、どういうことでしょうか。

部活動の地域移行とは・・・

これまで公立の中学校・高校で教員が実質的に無償で担ってきた部活動を、地域のスポーツクラブなどに移行すること。まず2023年度から、公立中学校の休日の部活動を段階的に地域移行していくこととなる。



具体的には、

- 週あたり2日以上 of 休養日の設定(平日1日、週末1日)
 - 部活動に強制的に加入させられることがないようにする
- などといったことが実施されるとのことです。

背景には、教員の働き方改革が大きく影響していますが、**部活動の地域移行は通塾回数の確保が見込めるチャンス**ともなるのではないのでしょうか。



すでに平日5日間の中で、部活動を行わない曜日を1日決めた、という学校もでてきているようです。その地域の塾の先生の中には、**「休みとなった曜日を通塾日に充てられないか」という提案を、早速保護者にした、とのことでした。**

もちろん、中学校や地域によって差もあることと思います。まずは地域の中学校の状況を確認されてみることから始めてみてはいかがでしょうか。



「営業マンNEWS」は、塾様にいろいろな情報を発信します。